



# 2019年度 愛知県公立高校入試問題

## Bグループ 分析コメント

教科	コメント
国語	<p><b>【難易度】（昨年度のBとの比較）やや難化 （Aとの比較）やや難化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>現代文が二題とも説明的文章だった昨年度に対し、久しぶりに小説が出題され、説明的文章と文学的文章の組み合わせになった。</li><li>設問数は18問で、4問ある2点問題のうち、3問が完答式の設問であった。</li><li>小説は読みやすいものであったが、論説は語彙力によって理解度に大きく差のつくものであり、漢文も内容を理解しづらいものであった。完答問題が多かったこともあり、全体的にやや難化した。</li></ul>
数学	<p><b>【難易度】（昨年度のBとの比較）やや易化 （Aとの比較）変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>昨年度のBグループと比較して、図形の問題は、解答を導く方針が立てやすい内容で変化はなく、事象と関数の問題は、問題文の読み取りや解答を導くための手順の負荷が軽減された。ただ、2点配点の問題が昨年度より正答しにくかったため、上位校の受験者にとっては得点しづらかったと思われる。</li><li>今年度のAグループと比較すると、大設問2（2）資料と統計分野、（3）1次関数の切片の範囲については、Aグループの大設問2の問題と比較すると、より思考力や判断力が試されるものとなっていた。一方で、図形分野は取り組みやすかった。</li></ul>
社会	<p><b>【難易度】（昨年度のBとの比較）やや易化 （Aとの比較）変化なし</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>公民分野（大設問5）の図版・資料の読み取りで難易度の高い問題が出題されたが、それ以外は標準的な知識で解答できる問題であったため、全体としては昨年度のBグループよりやや易化した。</li><li>論述問題はAグループと同様に歴史分野から出題され、Aグループより難しかった。</li><li>2点配点の問題は、歴史分野の文章の穴埋めと、地理分野の完答問題の2問出題された。</li></ul>
理科	<p><b>【難易度】（昨年度のBとの比較）やや易化 （Aとの比較）やや易化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>目新しい傾向の出題がなく、2点配点の問題も取り組みやすい問題だったため、全体的難易度はやや易化した。</li><li>Aグループ同様、問題文の中に長い会話文が使われており、その文を理解し、解答へと結びつけられるかが問われていた。Bグループでは地学からの出題であった。</li></ul>
英語	<p><b>【難易度】（昨年度のBとの比較）やや難化 （Aとの比較）やや難化</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>筆記検査-大設問1では条件英作文が出題され、Aグループと同様に絵を見て状況を英語で2文書く形式となったが、語数指定が7語以上だったため、やや解答しづらかった。</li><li>筆記検査-大設問2の対話完成では適語補充の形式で、一部は最初の文字が指定されていた。</li><li>筆記検査-大設問3の長文読解（5）〔内容把握を問う問題〕は、昨年度と同様に答えが1つとは限らないものであった。また長文の内容が読み取りにくく、解答しづらかった。</li><li>筆記検査-大設問4の対話文読解は、昨年度のA・Bグループや今年度のAグループと同じ形式であった。</li><li>教科書の表現を確実に運用することにより、解答できる問題が多く見られた。</li></ul>